

English version is [here](#)

Editors: Eric Kokish
Richard Colker
翻訳: 小林孝子

第9ラウンド

Bd: 1		NORTH	
DLR: N	♠ 76		
VUL: None	♥ Q109832		
	♦ K107		
	♣ Q6		
WEST		EAST	
♠ KQ84		♠ AJ532	
♥ 4		♥ KJ7	
♦ QJ43		♦ A9	
♣ K842		♣ J73	
		SOUTH	
	♥ 109		
	♠ A65		
	♦ 8652		
	♣ A1095		

最終ラウンド。一般的なコントラクトは4♣であり、ビッドした9ペアの内6ペアがメイクした。おそらくダイヤモンドをフィネスしたと思われるが、メイクの方法は先にもある。Sが♦Kと♣Q、Nが♠Aを持っている場合は、ディクレアラーは♦Aを先に取ってからダイヤモンドをプレイしなければならない。Sがダックする時は赤いシートをエリミネートし、マイナースートでルーザー・オン・ルーザーのプレイを選ぶか、もしくはクラブをプレイして双方のハンドでダックする。

宮国が4♠をダウンした経過はわからない。サクルは西田の4♣に対して♣9をリード(アスピの2♥オープンに対してWがスプリンターを使ったのでハートはあきらめた)。パートナーが3巡目のクラブをラフすることができた。ラストはトランプをダミーで勝ち、ハートをリードしてGがAIに負けた。内藤がクラブのローカードにシフトし、ラスートはこれをダックしたためにダウンした。

4♣以外のコントラクトをプレイしたのはまたまた日本ユース(高山・小林)。中国(シ・リウ)との対戦で5♥ダブルをプレイした。高山は5トリックしか取れず、マイナス1400の失点。一方のテーブルで加来・水田が4♣をメイクしていたのが救いか。

Bd: 15		NORTH	
DLR: S	♠ 87		
VUL: N/S	♥ 87		
	♦ K10873		
	♣ AK104		
WEST		EAST	
♠ AK6532		♠ 10	
♥ 2		♥ 1064	
♦ 5		♦ AQJ964	
♣ 86532		♣ QJ7	
		SOUTH	
	♠ QJ94		
	♥ AKQJ953		
	♦ 2		
	♣ 9		

プレイが終了するまで気づかないかもしれないが、NSのベストコントラクトは3NTである。高山・小林はプラス600を獲得して1番ボードの失点を取り返した。若年から熟年へと成長する過程で大きな数字を狙いたくなる気持ちはわかるものの、裏で水田・加来がプレイした4♣ダブル、マイナス1100は理解に苦しむ。日本ユースは11IMPの失点。

アームストロング・ハケットも重要な対富戦で3NT(プラス630)をメイクしたが(山田チームの花山・平田、台湾のウー・タイメイク)、裏ではハケット兄弟がスペードを3回プレイしなかったためにEがオーバーラフできず、4♥をメイクさせた。

4♥をダウンさせたのは山田・高橋とマンポプ・ラスートの2ペアだけであった。他のNSは4♣ダブルをディフェンシ、井野・今倉がプラス800、サクル・アスピがプラス500を得点した。

Bd: 16		NORTH	
DLR: W	♠ 10843		
VUL: E/W	♥ J107		
	♦ 85		
	♣ 7542		
WEST		EAST	
♠ AQ975		♠ K62	
♥ AQ8		♥ K9543	
♦ J7		♦ K10	
♣ AJ8		♣ KQ3	
		SOUTH	
	♠ J		
	♥ 62		
	♦ AQ96432		
	♣ 1096		

薄いスラムをプレイしたいなら6♥を選ぶべきである。同じメジャーでもルーザーがなく、Eの♦Kを守ることができる(Sがダイヤモンド以外のリードをした時はスペードをエスタブリッシュしてダイヤモンドをディスクードする)。

加来・水田は15番ボードの失点を挽回すべく(これも若さの特権)6♥をビッドしてメイク、プラス1430を獲得して13IMPの取りとなった。高山は5トリック止まり(ディクレアラーは当然E)。

正しいシートを選択することの重要さは台湾対グラーチームの結果からも見てとることができる。山田・高橋のスコアは6♥、プラス1430であったが、ウー・タイは5♣、マイナス100であった。これが決め手となり、グラーチームは貴重な17IMPを獲得して18-12と台湾を下した。

成功を規準とするならば、日本ウイメンズチームの西田・内藤もインドネシアのラスート・マンポポにビッド勝ち、前者は6♥、後者は4♥止まりであった。

山田対中村チームの対戦は様相が異なった。宮国・中村は6NTをビッド。6NTは6♥がダウンする時にメイクの可能性が大いにあるスラムである。しかし、今倉が♦Aをリードせず1ダウン、妻の花山・平田が5♥で止まっていたために13IMPの失点となり、山田チームが19-11の勝利を取めた。

イギリス対久富チームのEWペアは共に6♥をビッドし、堂々のブッシュ。

東洋のヤンキーたちー台湾対インドネシア

第1クォーター

ラウンドロビン戦の結果から、台湾はインドネシアに5.6IMP差をつけて準決勝はじまった。

1番ボードは台湾(タイ・ウー)のナチュラル・システムの勝利、インドネシア(サクル・アスピ)のポーリッシュ・クラブ・システムはビッドのレベルを上げすぎる結果となった。

Bd: 1		NORTH	
DLR: N	♠ AKQ942		
VUL: None	♥ AK8		
	♦ QJ4		
	♣ 4		
WEST		EAST	
♠ 8753		♠ 106	
♥ ---		♥ J107642	
♦ A8752		♦ K3	
♣ AK102		♣ Q75	
		SOUTH	
	♠ J		
	♥ Q953		
	♦ 1096		
	♣ J9863		

Open Room			
Shen	Asbi	Kuo	Sacul
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
	1♣(F1)	Pass	1♦(1)
Pass	2♣(2)	Pass	2NT
Pass	3NT	All Pass	
(1) NEG, usually			
Closed Room			
Manoppo	Tai	Lasut	CH Wu
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Pass	1♣	All Pass	

クロースドルームではEが♦Kをリード、Wのディスカレッジ・シグナルを見てハートにシフト、ハートラフ。♦A、ダイヤモンドドラフ、ハートラフと続いてクラブをプレイしたがそこまで。プラス80はなかなかのスコアである。オープンルームのSの3NTはメイクの可能性もあるものの、ダイヤモンドリードにQ、EがKを勝つ。ダミーの強いハンドが見えているのでクラブにスイッチし、ディフェンダーがクラブの4トリックとダイヤモンドの2トリックを勝って2ダウン。台湾チームが5IMPの勝ち。

7番ボードでは、双方のSが1NTをプレイし、スイングとなった。

オープンルームではWがクラブをリードして1NTをダウンさせたが、クロースドルームではWがスペードをリードして2メイク。台湾が6IMPを獲得して19-1とリードを広げる。

次のボード、クロースドルームではラスート・マンポポは6♣をビッド、オープンルームのシェン・クオは4♣で止まったため、点差が狭まる。

Bd: 7		NORTH	
DLR: S	♠ Q864		
VUL: Both	♥ QJ873		
	♦ AQ		
	♣ J4		
WEST		EAST	
♠ A753		♠ 1092	
♥ K42		♥ A95	
♦ 53		♦ KJ62	
♣ A1075		♣ 983	
		SOUTH	
	♠ KJ		
	♥ 106		
	♦ 109874		
	♣ KQ62		

6♣はレイダウンではないが、ディクレアラーはリードで1トリック「貰う」時を除き、プレイの方針はいつか考えられる。最も面白いのはNが最初のトランプをダックする場合である。この配置であれば、ディクレアラーはトランプを続けることと安全にダイヤモンドをラフすることができるが、Aの3枚トランプを持っているディフェンダーがいる時はトランプを出されてダイヤモンドドラフを阻まれる。

このハンドではトランプを2回回る前にダイヤモンドをラフするとダウンする。Nに♣Aで入った時に4枚目をダイヤメントに出されてSに♣10でオーバーラフされてしまうからである。ダイヤモンドラフを考えない方針なら♣10でフィネスをしてNをマイナースートのスクイーズにかけると、ハートのスリットを移してNを3つのスートでスクイーズにかけるとプレイが考えられる。実際には♦Jのリードでメイクしたインドネシアが11IMPを取り、成績は12-19となった。

第1セッションにおける大きなスイングはもう1ボードあった。タイ・ウーがバルネラブルで簡単なゲームを逃し、アスピ・サクルはゲーム・ビッド。16デュールが終了した時点でインドネシアが29-21とリードした。

第2クォーター

Bd: 17		NORTH	
DLR: S	♠ Q72		
VUL: E/W	♥ A10743		
	♦ J1062		
	♣ 3		
WEST		EAST	
♠ AK10654		♠ 3	
♥ K		♥ QJ86	
♦ 43		♦ A5	
♣ K1098		♣ QJ7654	
		SOUTH	
	♠ J98		
	♥ 952		
	♦ KQ987		
	♣ A2		

台湾(タイ・ウー)は3♣止まり。インドネシア(コキッシュ・コルカー)はあまり問題もなくゲームをビッドしてインドネシアが6IMPを獲得、35-21。

Bd: 18		NORTH	
DLR: E	♠ Q86		
VUL: N/S	♥ 42		
	♦ AK86		
	♣ AK74		
WEST		EAST	
♠ 10972		♠ K3	
♥ KQ965		♥ A1083	
♦ 7		♦ 1094	
♣ QJ2		♣ 9653	
		SOUTH	
	♠ AJ54		
	♥ J7		
	♦ QJ532		
	♣ 108		

Open Room			
SR Wu	Lasut	Tai	Manoppo
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
		Pass	Pass
Pass	1NT	Pass	2♣
Pass	2♦	Pass	3NT
All Pass			
Closed Room			
Kokish	CH Wu	Colker	Kuo
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
2♥	DBL	3♥	Pass
Pass	4♣	5♥	♠ 3
Pass	DBL All Pass		Pass

インドネシアはいろいろな意味で悲惨な結果を迎えるところだった。ラスートの3NTに対し、ハートをリードすると一巻の終わりだったが、タイは♠Kをリード、結果はマイナス100ではなくプラス630となった。クロースドルームに関しては編纂者一同の間でも大いに意見が異なる。変則的なウイーク・ツアー・オープンとプリエンティブ・レイズがNSをゲームまで押し上げたが、NSの4♣は正しくハートを3回回るとダウンする。Eはオポネートのコントラクトが正しいことを前提に、Wの6枚スートを期待して5♥までビッド、ダブルがかかった。ディフェンダーはクラブのラフをみつけられず、結果は3ダウンでマイナス500。勝利とは呼べないものの、インドネシアが幸運な4IMPを獲得して、39-21。

Bd: 19		NORTH	
DLR: S	♠ AK		
VUL: E/W	♥ 2		
	♦ K8743		
	♣ J9764		
WEST		EAST	
♠ Q64		♠ J5	
♥ J764		♥ KQ10953	
♦ Q96		♦ A2	
♣ 1082		♣ Q53	
		SOUTH	
	♠ 1098732		
	♥ A8		
	♦ J105		
	♣ AK		

クオ・ウーは3♣で止まり、セーフティ・プレイを選んで3メイク、プラス140。ラスート・マンポポは懸賞金がより高い4♣をビッド、プレイの方針は3-2に賭けるからである。ダイヤモンドのルーザーを1トリックに抑える、クラブの3-3に賭けるからである(ハートリードを勝ち、♣A、Kをキャッシュしてトランプでダミーに渡る。クラブをラフしてからトランプで渡り、♣Aを持って♥8をディスクード。ルーザーはダイヤモンドの2トリックとトランプの1トリック)。しかし、マンポポは方針を間違えてダウン、台湾は7IMPを失う代わりに5IMPを獲得、26-39と追い上げる。

ブリッジの神様は確かに存在する。「ザ・グレート・シャッフル(The Great Shuffler)」という名の神様である。この神様はマイナーに自分の存在を信者に知らせる性癖があるようだ。コキッシュは彼の信者である。NEC杯で2度でも♣Aシングルと、♥のQ4枚、ウーが5-3の14HCPというハンドを持った。コキッシュはトリックに困る中で2度ともウイーク1NTでオープンし、どちらの場合もパートナーがハートにトランプでダミーに渡る。クラブをラフしてからのオープン・レイズがNSをゲームまで押し上げたが、NSの4♣は正しくハートを3回回るとダウンする。Eはオポネートのコントラクトが正しいことを前提に、Wの6枚スートを期待して5♥までビッド、ダブルがかかった。ディフェンダーはクラブのラフをみつけられず、結果は3ダウンでマイナス500。勝利とは呼べないものの、インドネシアが幸運な4IMPを獲得して、39-21。

あなたが神様を信じるとかは別だが、この話は覚えておいてほしい。何せNECフェスティバルはまだ3日も残っている！

神様の話題になったところで。

Bd: 21		NORTH	
DLR: N	♠ J4		
VUL: N/S	♥ A1052		
	♦ K75		
	♣ K963		
WEST		EAST	
♠ A10		♠ 9632	
♥ K87		♥ J	
♦ AQ6		♦ J1098432	
♣ J10754		♣ A	
		SOUTH	
	♠ KQ875		
	♥ Q9643		
	♦ ---		
	♣ Q82		

Open Room			
SR Wu	Lasut	Tai	Manoppo
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
		3♦	All Pass
Closed Room			
Kokish	CH Wu	Colker	Kuo
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
3NT	DBL	Pass	DBL
5♦	5♥	All Pass	4♦

クオの勇気あるダブルを誉めるべきである。ダブルがかかったからクオが本当に良いハンドに活きている、ウーは5♦ダブルを却下して5♥をプレイすることを選んだ。パートナーのハンドがもう少し良いことを期待したほうが、クオが本当に良いハンドを持っている時は3NTダブルを却下して5♥をプレイすることとくにオーバーコールをしていたはずである。

コルカーが♠Aをリードし、スペードにシフトしていれば話は簡単だったが、彼はダイヤモンドをリードした。ウーはクラブをラフした後、天と神とに相談し、ダミーから♥Qをプレイした！デイリー・ブリテンの読者は、ラウンドロビン戦でタイが同じトランプのコンビネーションを持ち(トランプもハートで対戦も同じインドネシア)、やはり♥Qを引いたプレイを思い出したかもしれない。彼もまたジャングルトンをたたき落としたのである。そろそろ神様の存在を信じたくなる頃ではないか。ウーは♥Qがホールドするとスペードをプレイ、Wは2回目Aを勝ち、クラブのローカードにシフトしたが、実際にはトランプにシフトした方がよい。その後はウーにとって楽な展開となり(最もここまで来ればコントラクトはメイクすると誰もが考えた)、プラス650で台湾に13IMP。

23番ボードで台湾は再びリードを奪った。

Bd: 23		NORTH	
DLR: S	♠ 9843		
VUL: Both	♥ Q863		
	♦ AKJ4		
	♣ K		
WEST		EAST	